

「仙堀」整備計画について

- No.001 -
2016年(平成28年)
7月7日(木)発行
E-mail:senbori@
teamkoto.net
FAX:03-5635-9956

仙台堀川公園近隣住民有志、生物多様性チーム江東、NPO法人ネイチャーリーダー江東
NPO法人マザーツリー自然学校、こうとうバイオネットワーク、NPO法人Green Works

一緒に考えて頂けませんか！

現在、総事業費40億円、工期5年、平成29年着工で計画が進められている「仙台堀川公園整備計画」について、「整備して良かった」と思える整備であって欲しいと願い、このお知らせをつくりました。このチラシのPDFや関連資料は、検索「チーム江東」(<http://teamkoto.net>)で、閲覧、ダウンロードできます。また、整備計画を知らない方も多くいらっしゃると思いますので、ご友人やお知り合いの方々にご紹介いただくと幸いです。せっかく、時間とお金を掛けて整備をするのですから、江東区と一緒に良い知恵を出し合い、より良い環境づくりの機会にしていけたらいいと思っています。

江東区の「仙台堀川公園整備計画」は、公園に設置されている掲示板やホームページをご覧ください。江東区の担当部署は下記の2部署で、問い合わせや意見、要望の受付期限は7月15日です。

【公園・水路に関すること】 江東区土木部河川公園課工事係 TEL03-3647-2089

【道路に関すること】 江東区土木部道路課調整担当 TEL03-3647-9374

ぜひ、皆さんの仙台堀川公園への想いをお伝えください。

.....江東区の「仙台堀川公園整備計画のお知らせ」抜粋.....

仙台堀川公園利用者の皆様へ

日頃から、江東区土木部行政にご理解、ご協力ありがとうございます。
このたび、江東区では仙台堀川公園における清洲橋通り～小名木川の区間約1.1kmについて、防災機能の向上を図り、老朽化した公園施設のリニューアルをはじめ、自転車走行空間の整備など、道路・公園・河川の一体整備を計画しております。
これまで、平成26年10月11日号区報や平成28年4月24日砂町文化センターにて、本整備計画についての説明やご意見を募ったところですが、これまで以上に仙台堀川公園利用者の皆様へ本整備計画を広く周知するため本掲示にてお知らせいたします。

- 防 災：狭い両側歩道と車道、電柱倒壊による危険性
→ 狭あい道路の解消と無電柱化による防災機能の向上
 - 快 適：公園施設の老朽化、親水性の低い水路 → 実感できる緑の創造と親しみやすい水路
 - 交通安全：公園内の歩行者と自転車の錯綜 → 自転車走行空間の確保による分離
- 道路・公園・河川の一体整備により解決

江東区の「仙台堀川公園整備計画のお知らせ」は、キーワード検索「仙台堀川整備計画」をご覧ください。

<https://www.city.koto.lg.jp/seikatsu/douro/koujikasen/kasekouji.html>

〇お問い合わせについて

本整備におけるお問い合わせは下記連絡先にて承っております。

なお、ご意見、ご要望につきましては、今後の設計業務で検討するため

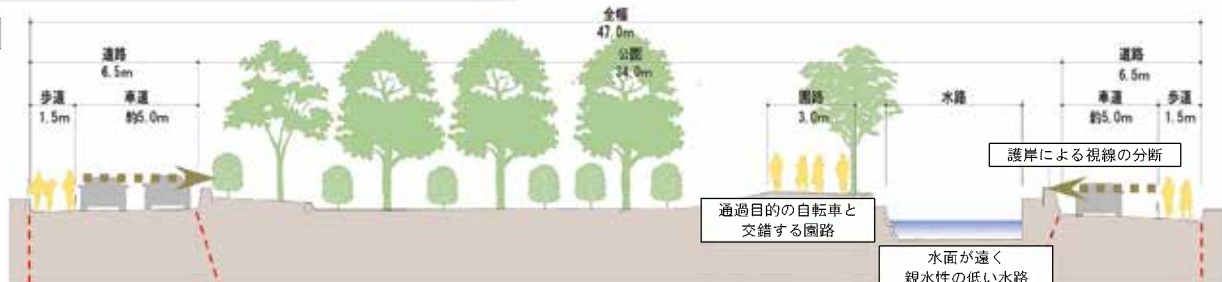
平成28年7月15日を期限とさせていただきます。

ご理解とご協力をお願いいたします。

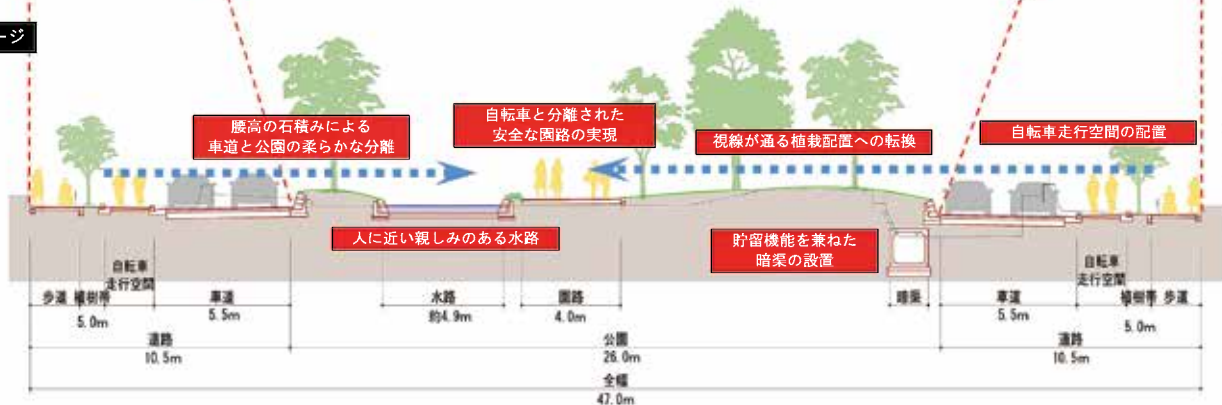
【公園・水路に関すること】
江東区土木部河川公園課工事係
TEL 03-3647-2089

【道路に関すること】
江東区土木部道路課調整担当
TEL 03-3647-9374

現況断面イメージ



基本設計断面イメージ



問題と感じていること

○公園には、さまざまな方々の多様な利用があります。

公園では、早朝の散策、ジョギング、愛犬との散歩をはじめ、近隣の保育園、幼稚園、小学校でも利用し、付近の高齢者施設や遠方からのウォーク、鳥の撮影に訪れる方も多くいます。

公園は、花見だけでなく、ちょっとした空間が数多く点在し、レジャーシートを広げたピクニック的な利用も四季を通して多く見られます。

広場は、午前中にゲートボール、休日や学校が終わった後は、自転車をネット代わりにした

テニスやキャッチボール、壁当て、鬼ごっこ、ダンスの練習など、多様に利用されています。

八ッ橋の池では、魚釣りやエビ、小魚を捕まえる姿があり、水路ではカルガモの親子を眺めて和む人や釣りを楽しむ人がいます。

しかし、今回の整備で多くの木々が伐採され、ちょっとしたゆとりがある空間や十分な木陰、自由な広場、生きもののいる水辺がなくなると、これまでのような多様な利用はできません。

○大きく育った多様な樹木が豊かな環境をつくっています。

「区民の森」として様々な検討の上、植えられた多様な樹木が30年を経て、現在の豊かな森になりました。しかし、計画ではサクラも含めて相当数の樹木を伐採し、東京都のレッドデータリストで「絶滅危惧Ⅰ類」の鷹“ツミ”が公園内でヒナを育てている木も伐採します。

整備区域は、仙台堀川公園内で最も野鳥の生息に適した環境の1つになっており、区や地域だけでなく、都内でも貴重な森になっています。

大きく育った木々の枝が重なり合うことで、鳥や虫はひとつながりの緑として、公園内を移動することができます。しかし、緑のつながりが断たれ、「森」が「木」になると、生息空間は極端に小さくなります。近年の剪定でも、オナガの減少に影響が出ており、今回の大規模な整備による致命的な影響が危惧されます。

また、大きく育った樹木は対面する住居間の視線を和らげており、生活への影響も発生します。



ちょっとした空間が利用の幅を広げます



愛犬の散歩でコミュニケーションの場にも



絶滅危惧種ツミ3羽が公園内で育っています



工夫して利用できるから楽しい（テニス）



自然観察の場としても利用しています



カルガモの子育ても見ることができます

○道路と歩行者・自転車の課題を合理的に解決できます。

今回整備対象の道路は、区内では決して狭い道路ではありません。小名木川両岸は一方通行です。また、都道の丸八通り、亀戸葛西橋線と平行し、住宅街の中にあり、東西に貫通していない道路です。すでに豊かな緑があり、人々が憩う公園を削り、狭いとされる道路に植樹帯を新設する計画は合理性に欠けます。8m も道路を広げ、8m も公園を削る必要があるでしょうか。

「自転車の増加による歩行者への危険」は理解できます。南砂緑道公園、大島緑道公園、同じ仙台堀川公園の他の場所では、歩行者、自転

車のレーン区分による通行で応じています。

歩行者と自転車の課題を現在の幅員で解決できれば、公園面積を減少させずに済みます。

また、大きく育った樹木や歴史的で落ち葉の散乱防止にも役立っている仙台堀川の護岸を継承することができ、事業費も削減できます。

清洲橋通りとの交差部は、仙台堀川公園の他の場所と同じように道路下に通路を設けて公園の一体化を図ることが可能です。公園の長さを活かしたジョギングコースとしての利用をはじめ、安全で快適な公園の魅力が高まります。

○多様な水辺の価値を継承した水路整備が必要です。

既存公園には水路と池があり、夏季には、シャワーもあるワンダフル水路で水遊ができます。

護岸を活かした現在の水路は、大横川からサイフォンで取水し、幅や深さがあることでハゼやボラの幼魚などの魚が生息しており、子育てをするカルガモも見ることができます。

真水の八ツ橋の池は、フナやエビなどが繁殖し、釣り人や子ども達だけでなく、これらを捕食するサギやカワセミの姿も見られます。

計画では、「水路を暗渠化（地中化）し、ポンプによる汲上で最大水深 30cm の水路を整備」「歴史的な運河のイメージを整形的な水路で具現化」としていますが、ポンプで生きものの流入は望めず、浅い水路では現存する生きものの多くが生息できません。

現在の公園で実現している子どもたちの遊びや生きものの棲み家など、多様な水辺の価値を継承した水路、水辺整備が求められます。



ゾーン分けをした通路(南砂緑道公園)



八ツ橋の池“ザリガニ池”もなくなります



ポンプで生きもののいない水路(仙台堀川公園)



ゾーン分けをした通路(仙台堀川公園)



豊かな水辺の1つになっている現在の水路



水深 30cm 基準の水路(竪川河川敷公園)

大切にしたいこと

○ 30 年培ってきた区や地域の「財産」を継承したい。

木々が大きくなり、やっと当初計画の「区民の森」になりました。生きものも豊かになり、珍しい鳥やカルガモの子育ても見られます。散策、憩い、釣り、自然、おしゃべり…いろいろ楽しめる場所です。地域の風景となり、親子、お孫さんが共有できる場所になっています。施設などの改修も必要ですが、一度失うと取り戻せない環境もあります。

子ども達がつくった樹名板とともに大きく育った樹木。豊かな緑が育まれ、多くの鳥の姿も見られるようになりました。

現在の公園は 30 年を経て得られた区や地域の財産です。



○ 貴重な機会です。新しい創造も検討したい。

まちづくりに参加するいい機会。私たちのふるさとです。高齢化時代への備えなど、通行の安全はとても大切です。清州橋通りの立体交差など、公園がつながったら素敵です。電線が無くなるのも、隣の公園などとの連携も楽しみです。ガーデニングやドックラン、いろいろな利用を考えたい。

ドックランを設けたり、現在路上に設けられているマラソンコースの公園内への設置、護岸の活用など、安全・安心、周囲との連携、景観のつながりなど、公園のさらなる活用が可能です。



○ 整備後もみんなで大切に育てていきたい。

公園を安全・快適にするには、継続したかわりが欠かせません。緑や生きものを育むには、多くの区民の方々の知恵と協力も大切です。公園について考える機会を設け、より快適で楽しい公園にできます。

現在の仙台堀川公園の林床（木々の根元、地面）は当初さまざまな植物がありましたが、なくなっていました。古石場川親水公園の水路はかつてアサリが生息しましたが浚渫により見られなくなりました。整備後の管理が大切で、ホタルが飛び交う公園も可能です。



仙台堀川公園は、ふるさとの原風景になっています。ぜひ、皆さんの声を

仙台堀川の歴史は、古くは江戸時代に遡り、この一部の砂町運河は民間の手で作られた数少ない運河です。運河は 1980 年に公園となっても区内を縦横につなぐ「区民の森」として

区の代表的な公園になりました。

今回の整備が公園の木々や面積を減らさず、公園の価値を高め、将来の魅力的な運営や管理につながることを心より願っています。

公園のここはこうで、あそこはこうなど、あなたのご意見を区のご担当に 7 月 15 日までにお伝えください。